

【2025年度 中東☆イスラーム研究セミナー 感想・評価】

日程：令和7年12月19日（金）～21日（日）

場所：AA研 マルチメディア会議室(304)

報告タイトル「アラブ首長国連邦におけるPMC利用の特徴 ―外国人傭兵の問題を中心に―」

宮城 蓮(明治大学大学院)

今回、AA研研究セミナー（3日間）に参加し、自身の研究を集中的に検討していただく貴重な機会を得た。私は博士後期課程で、中東地域を中心に民間軍事会社（PMC）と政治・安全保障ガバナンスの関係を研究している。もともとトルコのPMCを出発点に、近年台頭する非米英系PMCの展開を比較する必要性を感じており、ここ一年はアラブ首長国連邦（UAE）の活動、とりわけ外国人戦闘員の動員・移送をめぐる仕組みの分析を進めてきた。他方で、私の研究は地域研究の蓄積との接続が十分とは言えず、中東☆イスラーム研究の視点から論点設定や説明の仕方について率直なフィードバックをいただくことを目的として参加した。

セミナーでは「アラブ首長国連邦におけるPMC利用の特徴―外国人傭兵の問題を中心に―」として、募集・訓練・配備の各工程に着目し、企業・ブローカーが介在する多層的な動員・移送メカニズムを整理して提示した。先生方からの助言は、今後このテーマを査読論文として発展させるうえで指針となった。とりわけ、非国家主体の自律性を強調する立場に対し、近年の戦争が国家主導の形に回帰している可能性を踏まえるなら、その関係をいかに位置づけるべきかという根本的な問いは、大国間競争や地政学的文脈と接続して議論を組み直す必要を明確にした。また、一次資料の収集方針については、入手可能性の見通しに加え、研究倫理と安全性の観点から現実的な方法を慎重に選ぶべきであるとの重要な指摘を頂いた。さらに質疑を通じて、UAEの介入動機をより明確化するとともに、ロシアとの連動の論点を軸に説明枠組みを補強すべき課題が明確になった。短時間の学会報告では得難い、長時間の報告と丁寧な質疑を通じて深い検討を受けられる点は、本セミナーの大きな魅力である。

受講生同士の議論も刺激的であった。方法論や地域・時代の異なる研究者からの問いは、自分の説明の前提を可視化し、他分野に「伝わる」書き方や図式化の工夫を促した。他の受講生の報告からも、博士論文としての「出口」を見据えた構成や資料への向き合い方など、自身の研究の不足を補う観点を得ることができた。

改善点を一点挙げるなら、三日間の開催では遠方から参加する受講生ほど昼食の確保に負担が生じやすい点である。昼食に関する案内自体は事前に共有されていたものの、従来は弁当を手配していたと伺っており、もし可能であれば数量限定でもよいので弁当の斡旋があると、参加者が議論により集中しやすくなるのではないかと感じた。最後に、貴重な機会を準備して下さった先生方・スタッフの皆様にご心より御礼申し上げます。